

PART
2

親子でいっしょにやってみよう！

手伝い編



監修者からのアドバイス

子供というのは、お手伝いを通して自尊心を育んでいきますので、「ほめる、はげます、ひろげる」の3Hを意識して接するようにしてみましょう。とくにお料理はその絶好の機会。未知の調理器具や、さまざまな食材との触れあいは、子供にとってまさに「遊び」の延長です。ぜひ、親子で楽しみながら取り組んでみてください。

おうちの人^{ひと}が、いつも
どんなことをしているか、
よくみてみよう。



▶ おうちの人^{ひと}が、ほかにもしていることはないかな？
よくかんがえてみよう。

てっ
手伝い
1

そうじ

ひとり^{ひとり}でそうじたいへんそう。
何^{なに}ができるかな？

つぎのページへ



▶ おうちの人^{ひと}がよろこぶこと^{なに}は何かな？

たとえば…

→ おうちの人といっしょに
ちらかっているものをかたづけよう！



おうちの方へ

- ① 子供への「命令・禁止」は絶対にNG。
- ② 「お手本」を見せながら一緒に取り組んで。

てっだ
手伝い
2

せんたく

公園でよごれたおようふく、
きれいになるまでにたくさんやること
があるみたい。何かできることあるかな？

つぎのページへ

できること、
たくさん
さがしてみよう



▶ おうちの人のためにできることは何か？

たとえば…

おうちの^{ひと}人といっしょに
かわいたようふくをとりこんで
たたんでみよう！



おうちの方へ

- ① 子供への「命令・禁止」は絶対にNG。
- ② 「お手本」を見せながら一緒に取り組んで。

てっ
手伝い
3

りょうり

いただきますまでに
どんなことしてるかな？



▶ なん
何さいになったらできるようになるかな？
(1つ1つゆびでさして^{こた}答えてね)

お手伝いで身につくのは まさに「生きる力」そのもの

うちにも小さい娘が3人いるので毎日バタバタですが、子供といっしょに家事に取り組むのは本当に楽しいですね。まだ「お手伝いしやすいような下準備」が必要なので、余計に手間がかかってしまうこともあります。子供のお手伝いには、そんな手間には代えられないものがあると思います。お手伝いを通じて達成感を得ていることは、彼女たちの誇らしげな表情からもわかりますから。

今回は忍者に扮した子供たちがおうちの人の家事を観察するという形を提案させていただきましたが、小さい子供にとっては、お手伝いにも「遊び心」が必要。まずは楽しみながら家事を手伝うことからはじめ、できる事を少しずつ増やしてあげていけばいいのだと思います。洗濯物をたたむのが難しければ、はじめは家族それぞれの分をわけるだけでもいいですし、配膳の習慣が身につけば、次は食器を下げることに目も向くはずですよ。

掃除や洗濯、料理に代表される「シユフ業」、は生きることそのもの。男女を問わずこれからの子供たちには必須の力です。ぜひ、日々のお手伝いを通じて、その力を養ってもらいたいですね。



手伝い編を考えてくれたのは

主夫芸人 中村シュフさん

1979年生まれ。東北生活文化大学家政学部卒業。小学3年生、年長、2歳の3姉妹の父親にして日本唯一の「主夫芸人」。PTAの役員もつとめる多忙な毎日の中、ブログ、ツイッターでも発信中。著書に『主夫になってはじめてわかった主婦のこと』（猿江商會）。